

提 案：ミントの香り漂うまちにしませんか！

発信者：留辺蘂まちづくり協議会・ 協力 クッカーさんの

対 象：新北見市民(常呂・端野・北見・留辺蘂各自治区住民)

(125,562 人 平成 22 年 10 月 31 日現在)

目 的：自治区住民を越えた新北見市民としての一体感を醸成するため。

新北見のシンボルとしてのミントの再認識、再発見。

高齢者は思い出として、子ども(ミントを見たこともない子どもがいる)は新たな発見として。

行 動：市民一人ミント一株を植える。その結果、まちじゅうに12万5562株のミントが咲き誇りミントの香りが漂う。

ミントの種類：香りと同時に葉や油も利用できる所以個人の好みによります。

費 用：原則自己負担、時と場合によっては、市からの補助金や企業・団体からの寄付も考えられます。

場 所：基本的に、身近な所。自宅の庭や花壇、畑、敷地の周り、学校及び公共施設、企業団体所有の敷地、歩道、中央分離帯などなど。プランターも可？

育て方：近所の栽培経験のある高齢者に話を伺いながら行うのが一番。

世代交流や地域交流が期待できる。本やインターネットなどなど。

利用法：ミントの種類によって異なりますが、ハーブティーやミントオイルとして利用できます。

参考メモ＊〔北見ハッカ記念館横に薄荷蒸留館がある。開館は5月から10月〕

＊美幌高校3年の藤石葵さん(毎日農業記録賞)：薄荷の苗を栽培し独自設計した蒸留器で油を取りスープカレーを考案。

効 果：かつて産業としての薄荷栽培が行われ北見のまちの発展に大きく寄与しました。そして今、一市三町が合併し新北見市が誕生しました。その統一シンボルとしてミントを植える作業を通して北見市民としての一体感を得られる。

また、自然志向の時代と言われる現代、ハーブとしてのミントを全国、全世界に発信でき、北見市のイメージ向上につながる。

ミントのイメージ

①清涼感・清潔・すがすがしさ・クリーン・クール

②農産物としての薄荷をハーブのミントとして再認識できる。

提案事項

- 1、留辺蘂まちづくり協議会で承認された後、各自治区「まち協」に賛同を要請し共同呼びかけ団体になってもらう。
- 2、市民に発信、周知するために行政の協力を得、広報「北見」に別紙チラシ内容を本文印刷してもらう。

以上

提案理由

合併に伴い旧一市三町に自治区がおかれ「まちづくり協議会」が設置されました。

そして現在三期目、年数では5年目を迎えました。

これまで、各自治区の「まちづくり協議会」では主にそれぞれの自治区内事業あるいは同じテーマでも自治区ごとの課題、問題点を洗い出し協議し市長に答申を行ってまいりました。

自治区内事業等の答申を主に行ってきたわけですが、年数経過とともに、北見市全体の一体感をどのように作っていけばいいのかという課題も念頭から離れることはありませんでした。そこで、市民が費用や作業負担が過大でなく、身近にでき、違和感のない取り組みはないだろうかと考えていました。

選定するための観点

- ・自治区を超えて取り組めること。
- ・一人でも複数でも取り組めること。
- ・自己負担が原則なので、少ない費用であまり手間がかからないもの、こと。
- ・年齢、性別を超えて取り組めること。
- ・取り組みによって世代間交流、地域間交流につながる取り組み。
- ・取り組むことによってささやかでもいいから充実感、達成感、将来につながるもの、ものであること。
- ・市民が取り組み内容を誇れること。
- ・すべての自治区になじみのあるもの、こと。
- ・今後も継続的に取り組めること。
- ・北見市のイメージ向上につながるもの、こと。
- ・将来的に発展性のあるもの。商業化、産業化、観光化につながる可能性のあるもの。
- ・時代や世界の向かう方向に沿っているもの、こと。

上記の観点から、「ミントを植えること」が現時点で最適ではないかとの結論を得ました。

以上

